

(220) 浸漬ノズルの溶損に与えるパウダー成分の影響

新日本製鐵(株) 設備技術本部 ○中村幸弘 安藤貞一
倉田浩輔 池田順一

1. 緒言 浸漬ノズルの寿命は、主にパウダーライン部の溶損・アルミナ付着によるノズル閉塞に決定されている。また、高速鋳造に伴ない低粘性パウダーの使用が増加し、浸漬ノズルの寿命はますます厳しい条件下に置かれている。そこで、パウダーライン部(材質:ZrO₂-C)の溶損メカニズム解明の第1ステップとして、パウダー成分を変化させた浸漬テストを実施し、二三の知見が得られたので報告する。

2. 実験方法 Table 1-2に示すように、ZrO₂-Cとして4種類、試作パウダーとして8種類を用い、高周波誘導炉による浸漬テストを行なった。試作パウダーは、従来溶損に影響すると言われている粘度、Na量を変化させ、ZrO₂-Cとしては、ZrO₂含有量の異なる実機使用品を選択した。浸漬テスト条件は、浸漬1時間、溶鋼温度1550°C、パウダー量1kg(溶融厚約10mm)である。

3. 実験結果および考察 パウダー粘度とZrO₂-Cの溶損については、粘度が小さくなるにつれ溶損が大きくなつた。また、Fig. 1にパウダー中のF⁻含有量と溶損の関係について示したが、F⁻量が増加するにつれ溶損が大きくなり、従来ノズル溶損に影響すると言われているNa量より、強い相関が見られた。

パウダーによるノズル溶損は、粘度・低粘性化成分等の複雑な要因が絡みあい、1つのパラメータではうまくノズル溶損との関係を示すことができなかつた。そこでイオン結合強度を考慮し、低粘性化成分も含めた塩基度Biを導入し、溶損量との関係をFig. 2に示した。また、図中には実機溶損データもプロットしたが、パウダー塩基度Biが大きくなるにつれて溶損量が大きくなる傾向にある。

4. 結言 ZrO₂-Cの溶損に与えるパウダー成分の影響について調査したが、溶損にはパウダーの粘度、F⁻含有量が大きく影響する。また、パウダー塩基度Biを適用することによりZrO₂-Cの溶損をうまくあらわすことができる。

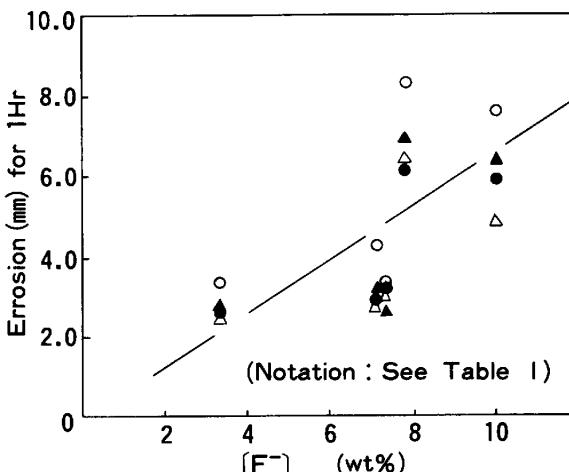
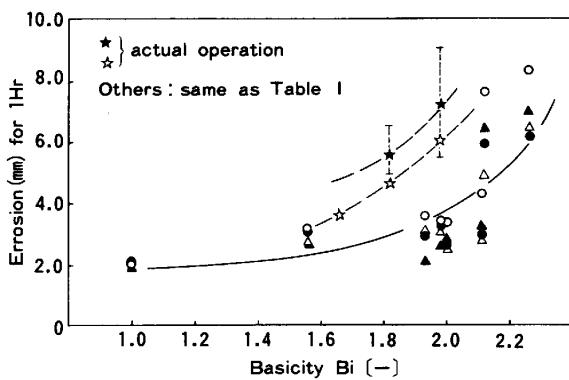
参考文献：1) 特公昭57-42437

Table. 1 Properties of ZrO₂-C samples

	Chemical composition (%)				Bulk density (g/cm ³)	Apparent porosity (%)	Modulus of rupture (kg/cm)	Symbol
	C	SiC	ZrO ₂	Others				
A	22	11	63	3	3.18	14.0	111	○
B	12	6	77	—	3.64	18.3	65	●
C	13	8	76	—	3.43	18.5	102	△
D	13	13	71	—	3.33	18.5	90	▲

Table. 2 Properties of mold powders

	Chemical composition (%)						m. p. (°C)	Viscosity (Poise) at 1300°C
	SiO ₂	Al ₂ O ₃	CaO	Na ₂ O	F ⁻	MgO		
a	37.3	0.5	43.9	12.9	7.8	—	1140	1.0
b	38.5	7.4	35.9	12.9	7.6	—	1105	3.0
c	44.2	8.1	30.1	12.9	7.7	—	1080	5.0
d	51.0	0.9	35.9	7.5	4.6	—	1330	10.0
e	37.6	0.7	45.1	10.0	10.0	—	1180	1.0
f	39.1	0.7	35.3	20.0	7.1	—	1085	1.0
g	39.0	0.6	28.2	30.0	3.3	—	1110	1.0
h	34.5	0.6	34.3	12.0	7.3	11.3	1085	1.0

Fig. 1 Relationship between F⁻ content in the mold powder and erosion of ZrO₂-CFig. 2 Relationship between basicity of the mold powder and erosion of ZrO₂-C